高校生就職内定率80%

全国12月2年連続増　本県は84%

今春に卒業予定で就職を希望している高校生の昨年十二月末時点の就職内定率は、前年同期より2・5ポイント増の80・4%で、二年連続80%を超えたのは三年ぶりで、改善傾向が鮮明になった。東日本大震災の被災地では、本県が6・7ポイント増の84・2%だった。宮城県は80・4%で前年同期比14・0ポイント増の大幅上昇となり、岩手は3・8ポイント増の88・6%だった。

文科省は「高校やハローワークが春から就職支援に取り組んだ結果が出てきたのではないか」とみている。

上回ったことが十七日、文部科学省の調査で分かった。

浪江の生活支援拠点 開所

福島 仮設の高齢者ら対象

東京電力福島第一原発事故で福島市の仮設住宅に避難する浪江町の高齢者や子ども、体の不自由な人の日常生活を支える拠点施設「浪江町サポートセンターふくしま」が十七日、同市笹谷に開所した。

福島市に開所した浪江町サポートセンターふくしま

施設の延べ床面積は約三百平方メートルで、屋内には筋力トレーニングや全身運動の機器計十四台を設置している。浪江町のNPO法人Jinが県の委託を受けて運営する。

介護予防の拠点として仮設住宅や借り上げ住宅に入居する高齢者を対象に体操教室を開くほか、住民同士が交流を深めるサロンも開催する。児童の預かり事業も行う予定。登録制で、問い合わせは同センター　電話024（559）2552へ。

南相馬と富岡 住民が一時帰宅

東京電力福島第一原発から半径二十キロ圏内の警戒区域への三巡目の一時帰宅は十七日、南相馬市と富岡町で行われた。南相馬市は二百九十七世帯七百十六人、富岡町は三百四世帯六百四十一人が参加した。

南相馬市の九世帯、富岡町の十二世帯が修繕・引っ越し業者を同行させた。除染が必要な人や物はなかった。

区域内の個人の積算放射線量は南相馬市が〇～一四マイクロシーベルト、富岡町が〇～三二マイクロシーベルトだった。

十八日は双葉、浪江の両町で行われる予定。

3・11からの模索

テレビ・ラジオの現場 ▼1▲

夢であれと津波撮影

東日本大震災に直面した放送メディアの記者やカメラマン、アナウンサーたちは何を思い、どのように伝えてきたのか。いま何に迷い、悩んでいるのか。模索と苦闘の現場をリポートする。

海沿いの高台にあるビルへ車で向かい、カメラを構えた。数分後に津波が押し寄せ、町をのみ込んでいく。「夢であってほしい」。胸を締め付けられる思いで、一部始終を映像に収めた。

▼恐怖と怒り

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、岩手県宮古市。アナウンサー、記者、カメラマンを兼務する岩手めんこいテレビ宮古支局の井上智晶さん(三三)は「落ち着け、慌てるな」とつぶやきながら海へと急いだ。

「津波を撮るためにこの支局にいるようなもの」と思ってきた。地震がきたら水門が閉鎖する映像を撮影し、宮古漁協ビルへ行くと決めていた。

漁協ビル近くで車を降りた。隣にいた男性が「くそー」と叫んでいる。見ているだけのもどかしさ。恐怖と怒り。流された車のクラクションが鳴り響く。悲鳴のようだ。

津波の映像をインターネット回線で送れない。悔しさを抱えたまま避難所の小学校へ。午後十時ごろ、応援の秋田テレビの中継車と合流し、やっと送ることができた。

震災後の一カ月は、変わりたところから、津波映像について視聴者から「思い出して、つらくなる」「もう見たくない」という声が局に寄せられるようになった。

君沢温報道部長は「長く見ていると落ち込んでくる。それは自分でも感じていた」と打ち明ける。だが「映像を封印することが正しいのか…」。局内で議論を重ねた。

六月ごろから、ニュースや特別番組などで津波映像を流す際、事前にアナウンサーが「気分が悪くなる方もいらっしゃいますので、その場合は継続して視聴するのをおやめください」と呼び掛けるようになった。「震災を風化させてはならないが、見る人の心にも配慮しなければ」と君沢部長。試行錯誤は続く。

「見たくない」の声に議論

果てた町を見るだけで涙が流れた。その後、震災の教訓を後世に残そうとドキュメンタリー番組を制作し、八月に放送した。今後は「経済的、精神的に取り残されていく人が出ないよう密着取材していく」。

▼風化と配慮

震災から一、二カ月がたって視聴者から「思い出して、つらくなる」「もう見たくない」という声が局に寄せられるようになった。

君沢温報道部長は「長く見ていると落ち込んでくる。それは自分でも感じていた」と打ち明ける。だが「映像を封印することが正しいのか…」。局内で議論を重ねた。

六月ごろから、ニュースや特別番組などで津波映像を流す際、事前にアナウンサーが「気分が悪くなる方もいらっしゃいますので、その場合は継続して視聴するのをおやめください」と呼び掛けるようになった。「震災を風化させてはならないが、見る人の心にも配慮しなければ」と君沢部長。試行錯誤は続く。

子どもの屋外活動制限

郡山の小児科医 菊池信太郎さん インタビュー

東日本大震災からもうすぐ一年。郡山市では、原発事故での放射線の影響を考え、子どもたちの屋外活動の制限が今も続いている。ストレスをためる子どもたち。被災した子どもたちの、心と体をどうひらくか。郡山市で子どもの心と体のケアに当たっている小児科医、菊池信太郎さんに聞いた。（共同通信編集委員・山田博）

インタビューに答える菊池信太郎さん

私の住む郡山市は、事故を起こした福島第一原発からおよそ六十キロ。放射線事故の影響を考え、子どもの屋外活動は保育園、幼稚園児は三十分以内、小学生は体育の時間を含めて三時間以内などと今も制限されている。

当然だが、子どもの暮らしはとても窮屈だ。

町のイベントに勇んで出てきた鼓笛隊の幼稚園児は室内で念入りに支度を整え、さあこれからと張り切っても、本番のパレードは三十分以内で済ませなければならない。

運動会も、小学校の半分くらいは校庭を使ったが、実際にグラウンドに降りてくるのは出番がきた生徒だけ。他は校舎で待機、というありさまだ。こんなことで子どもの元気が出るわけがない。

震災以来、地震だ、放射線が危ない、とほんろうされ続けた親にすれば、子どもを外に出す気になれないのも当たり前だ。親の気持ちのこわばりが子どもに伝わり、子ども自身が外に出て遊ぶことにブレーキをかけるようになる。

昨年五月末、市内の幼稚園で四、五歳児のそれまで一年間の体重の増え方を調べたが、前年の四分の一しか増えていない。

発達に必要な体験を

ことが判明した。私の病院の診察でも、震災後、小学生にも、肩こり、頭痛、便秘とまるで大人なみの不定愁訴が目立ってきた。外にも出られない縮こまった生活で体と心が悲鳴をあげているのだ。

子どもには体を使って遊ぶ環境が必要ということをアピールするため、八月末に、市や遊具販売会社に協力してもらい、三日間のイベントを企画した。たった二百平方メートルしかないイベントスペースで跳びはねるトランポリンなど大型遊具を用意したら、三千五百人もの親子が詰め掛けたのだ。本当にびっくりした。

汗だくでトランポリンを跳び続ける、ひたすらランニングコースを走る子どもたちの屈託のない笑顔に、子どもたちは体を使った遊びにこんなに飢えていたのか、と思い知らされた。

どの親も「こんないい顔、久しぶりに見た」「しっかり動くとこんなふうに笑うのか。安心した」と大喜び。子どもの元気は、親のストレスも和らげるのだ。

こんな子どもの姿は多くの人の心を動かした。「もっとやった方がいい」。テレビを見た地元のスーパー経営者から常設の遊び場づくりにと空き倉庫提供の申し出があり、遊具も無償提供してくれることに。

その結果、昨年十二月誕生したのが室内遊び場「PEP Kids Koriyama（ペップキッズこおりやま）」だ。

広さは約千九百平方メートル。ランニングコース、大型砂場、ボールプールなど多くの遊具を備え、楽しみながら体を動かせる本格施設だ。対象は十二歳以下だが、利用は無料。土、日には千五百人、平日でも千人の親子が喚声をあげている。

今、福島の子はおりの中で飼われているようなものだ。放射線の恐怖のなかで発達に必要な体験を積めずに貴重な時間を失っている。

子どもは、五感を動員し体の力をフルに発揮してこそ体も心も育っていく。国や行政には、必要な経験を奪われている子どもの現実を見据えた取り組みを期待したい。

…やりたいだけ遊び切る子どもたちの屈託のない笑顔に、子どもたちは体を使った遊びにこんなに飢えていたのか、と思い知らされた。

どの親も「こんないい顔、久しぶりに見た」「しっかり動くとこんなふうに笑うのか。安心した」と大喜び。子どもの元気は、親のストレスも和らげるのだ。

こんな子どもの姿は多くの人の心を動かした。

「もっとやった方がいい」。テレビを見た地元のスーパー経営者から常設の遊び場づくりにと空き倉庫提供の申し出があり、遊具も無償提供してくれることに。

その結果、昨年十二月誕生したのが室内遊び場「PEP Kids Koriyama（ペップキッズこおりやま）」だ。

広さは約千九百平方メートル。ランニングコース、大型砂場、ボールプールなど多くの遊具を備え、楽しみながら体を動かせる本格施設だ。対象は十二歳以下だが、利用は無料。土、日には千五百人、平日でも千人の親子が喚声をあげている。

今、福島の子はおりの中で飼われているようなものだ。放射線の恐怖のなかで発達に必要な体験を積めずに貴重な時間を失っている。

子どもは、五感を動員し体の力をフルに発揮してこそ体も心も育っていく。国や行政には、必要な経験を奪われている子どもの現実を見据えた取り組みを期待したい。

飼料の放射性物質 再調査

対象作物、地域 決まる

牛用飼料の放射性セシウムの暫定許容値が一キロ当たり一〇〇ベクレル以下に厳格化されるのに伴い実施する再調査について県は十七日、対象の作物、地域を発表した。作物は平成二十三年産の牧草、飼料用トウモロコシ、稲ワラ・稲発酵粗飼料。一〇〇ベクレルを超えた地域は使用自粛を求める。

暫定許容値は四月一日に食品の新基準値（牛肉は一キロ当たり一〇〇ベクレル超、牛乳は五〇ベクレル超）が適用されるのに伴い、「三〇〇ベクレル以下」から厳格化された。県は三月中旬までに調査を終える。農家には乳用牛用飼料は三月十五日、それ以外の牛用飼料は三月三十一日までに飼料を一〇〇ベクレル以下の物に切り替えてもらう。

全作物とも昨年の調査で既に一〇〇ベクレルを超えていた地域は使用自粛とし、それ以外の地域は一地域当たり三点以上の再調査で一点でも一〇〇ベクレルを超えれば自粛とする。

牧草の再調査、使用自粛地域は【表】の通り。

飼料用トウモロコシの再調査、使用自粛地域、稲ワラ・稲発酵粗飼料の再調査地域（旧市町村単位）は次の通り。

【飼料用トウモロコシ】

◇自粛＝須賀川市旧岩瀬村、いわき市南部　◇再調査＝須賀川市旧長沼町、同旧須賀川市、いわき市北部、同中部

【稲ワラ・稲発酵粗飼料】

◇再調査▽福島市＝荒井、土湯、佐倉、湯野、茂庭、大森、鳥川、松川、金谷川、大久保、明治▽川俣町＝川俣▽伊達市＝伏黒、伊達、大枝、粟野、白根、五十沢、保原▽桑折町＝伊達崎▽二本松市＝二本松、油井（二本松市）、下川崎、旭、針道▽本宮市＝青田▽大玉村＝玉井▽郡山市＝大槻、喜久田、日和田、富久山、逢隈、高野▽田村市＝文珠、美山▽三春町＝御木沢、沢石、要田▽須賀川市＝西袋、長沼、白江▽白河市＝白河、小田川、大屋、信夫▽棚倉町＝棚倉、近津▽相馬市＝大野、山上、磯部、日立木、八幡▽いわき市＝豊間、箕輪、勿来、好間

土壌の有害物質 6地点で基準超

被災地で調査

環境省は十七日、被災地の土壌環境モニタリング調査結果を公表した。相馬、南相馬、いわきの三市三十一地点を調べ、六地点でヒ素や鉛などの土壌溶出量・土壌含有量の基準値を上回った。

東日本大震災の津波の被害などを受けた施設に使われた特定有害物質が周囲の環境に影響を与えていないか昨年十二月から一月にかけて調べた。同省が基準値を超えた地点の周辺の井戸などの水質を調べている。

土壌溶出量・含有量の基準値を上回ったのは次の通り（かっこ内は基準値、単位は一リットル当たりのミリグラムで、土壌含有量のみ一キロ当たりのミリグラム）。

◇相馬市▽程田公会堂＝ヒ素・その化合物0・01（0・01）

◇南相馬市▽市消防団鹿島区第三分団第三部屯所＝ヒ素・その化合物0・022（0・01）▽真野小＝ヒ素・その化合物0・013（0・01）

◇いわき市▽江名市民サービスセンター＝鉛・その化合物0・043（0・01）土壌含有量・190（150）▽いわきサンマリーナ＝フッ素・その化合物1・2（0・8）▽岩間公民館＝鉛・その化合物0・012（0・01）

新暫定許容値施行に伴う牧草の使用自粛地域と再調査地域

地域	対象市町村	新暫定許容値後の対応 1番草	2番草	3番草
郡山西部	郡山市（阿武隈川以西、富久山町含む）	—	100ベクレル超→自粛	再調査
田村南部	田村市（旧大越町、旧滝根町）小野町	—	100ベクレル超→自粛	再調査
石川郡	石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町	—	再調査	再調査
西白河郡東部	矢吹町、泉崎村、中島村、白河市（旧表郷村、旧東村）	—	—	再調査
いわき	いわき市	—	—	100ベクレル超→自粛
猪苗代南部	猪苗代町（吾妻地区を除く）	100ベクレル超→自粛	再調査	再調査
若松・坂下	会津若松市、磐梯町、会津坂下町、湯川村、会津美里町	再調査	再調査	再調査
会津北西部	柳津町、三島町、金山町、北塩原村、喜多方市、西会津町	再調査	再調査	再調査
南会津	下郷町、南会津町、只見町	再調査	再調査	再調査

※数値は1キロ当たり。

セシウム8万7000ベクレル検出

請戸川室原橋周辺 底部土壌

河川調査

政府の原子力災害現地対策本部と県災害対策本部は十七日、県内の河川百十三地点と湖沼・ダム貯水池三十二地点（底質は三十一地点）、農業用ため池十四地点についての水質と底部土壌のモニタリング検査の結果を公表した。

【表】の通り。相双地区の請戸川の室原橋周辺が一キロ当たり放射性セシウム134が三万八〇〇〇ベクレル、セシウム137が四万九〇〇〇ベクレルとなっている。

河川の水質の放射性セシウムは県北地区の移川の小瀬川橋周辺が最も多く、一リットル当たりセシウム134が三ベクレル、セシウム137が四ベクレルだった。湖沼・ダム貯水池、農業用ため池の水質の放射性セシウムは不検出だった。

放射性ヨウ素は河川、湖沼・ダム貯水池、農業用ため池の水質、底部土壌とも検出下限値未満だった。

大柿ダム周辺 セシウム34万ベクレル

浪江

環境省は十七日、岩手、福島両県の河川や湖など計二百十四地点で測定した土壌などに含まれる放射性物質の濃度を公表。東京電力福島第一原発事故の警戒区域にある浪江町の大柿ダム周辺の土壌で、最大一キロ当たり三四万ベクレルの放射性セシウムを検出した。

環境省が行った本県全域での調査は二回目。福島県内の河川や湖では前回調査よりも数値が高い地点があり、同省は「雨で比較的高濃度の土壌が流れ込んでたまった可能性がある」としている。

一〇万ベクレルを超える一般ごみの焼却灰などは、鉄筋コンクリートの仕切りや雨水流入防止設備も備えた処分場に埋め立てる必要があり、三四万ベクレルはそれを上回る水準。

1290地点の地下水 放射性物質不検出

南相馬と川内

環境省は十七日、東京電力福島第一原発事故の旧緊急時避難準備区域にある南相馬市、川内村の計千二百九十地点で井戸などの地下水を調査し、全地点で放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されなかったと発表した。

南相馬市は昨年十月から十二月にかけて原町区の六百七十五カ所を調べた。川内村は昨年十一月から十二月にかけて上川内と下川内の六百十カ所を調査した。

公共用水域の放射性物質の検査結果

※単位は1キロ当たりのベクレル。11月調査速報値。左の数値はセシウム134、右はセシウム137。「—」は検出限界未満。

【河川底質】

▶県北		
阿武隈川・高田橋	280	330
同・蓬莱橋	76	100
同・大正橋	1,200	1,500
広瀬川・阿武隈川合流前	540	740
同・館ノ腰橋	450	580
同・地蔵川原橋	380	490
小国川・広瀬川合流前	2,100	2,500
摺上川・阿武隈川合流前	260	370
同・十綱橋	76	110
八反田川・八反田橋	1,200	1,500
松川・阿武隈川合流前	180	220
荒川・阿武隈川合流前	190	270
同・日ノ倉橋	120	150
須川・須川橋	59	78
濁川・大森川合流前	280	370
水原川・下藤内橋	250	320
女神川・鶴巻橋	680	890
移川・小瀬川橋	230	320
移川（支流：口太川）・口太川橋	670	770
五百川・阿武隈川合流前	190	260
同・上関下橋	320	380
▶県中		
阿武隈川・江持橋	56	68
同・阿久津橋	49	67
五百川・石筵川合流後	84	100
逢瀬川・馬場川合流点前	410	550
同・幕ノ内橋	140	190
同・阿武隈川合流前	310	380
大滝根川・船引橋	51	68
同・阿武隈川合流前	120	150
谷田川・谷田川橋	31	48
笹原川・新橋	110	150
釈迦堂川・須賀川市水道取水点	43	54
同・阿武隈川合流前	41	48
社川・王子橋	16	20
今出川・猫啼橋	19	28
北須川・やなぎ橋	65	100
夏井川・北ノ内橋	34	42
▶県南		
阿武隈川・羽太橋	34	47
同・田町大橋	98	130
同・川ノ目橋	11	23
社川・社川橋	57	51
谷津田川・阿武隈川合流前	150	180
黒川・栃木県境	18	32
久慈川・松岡橋	10	13
同・高地原橋	—	14
▶会津		
阿賀野川・大川橋	—	13
同・宮古橋	61	73
同・新郷ダム	560	660
只見川・西谷橋	—	—
同・藤橋	—	—
田付川・大橋	89	110
同・下川原橋	74	95
宮川・細工名橋	75	100
旧宮川・丈助橋	230	290
濁川・濁川橋	13	23
同・山崎橋	56	83
日橋川・南大橋	68	90
湯川・滝見橋	150	170
同・新湯川橋	1,300	1,700
同・阿賀野川合流前	110	130
旧湯川・粟ノ宮橋	11,000	14,000
長瀬川・小金橋	18	34
酸川・酸川野	25	27
▶南会津		
阿賀野川・田島橋	—	—
伊南川・青柳橋	—	—
同・黒沢橋	—	—
▶相双		
小泉川・小泉橋	460	600
同・百間橋	880	1,000
宇多川・掘坂橋	1,000	1,300
同・百間橋	220	270
真野川・落合橋	290	370
同・真島橋	1,500	1,900
新田川・草野	560	730
同・小宮	1,900	2,500
同・木戸内橋	1,100	1,500
同・鮭川橋	270	340
太田川・石渡戸橋	6,300	8,100
同・上ノ内橋	10,000	12,000
同・益田橋	1,300	1,600
同・ＪＲ鉄道橋	1,300	1,700
同・丸山橋	32	39
小高川・善丁橋	300	420
同・ハツカラ橋	670	830
請戸川・室原橋	38,000	49,000
同・請戸橋	16,000	21,000
高瀬川・慶応橋	770	880
前田川・国道6号線西側	8,300	10,000
同・中浜橋	1,300	1,600
熊川・国道6号線西側	3,100	4,000
同・三熊橋	4,700	6,100
富岡川・国道6号線西側	1,200	1,600
同・小浜橋	7,700	9,900
井出川・本釜橋	1,500	2,000
木戸川・西山橋	310	380
同・長瀞橋	230	300
同・木戸川橋	1,100	1,400
浅見川・坊田橋	370	460
地蔵川・浜畑橋	1,900	2,500
▶いわき		
大久川・陰磯橋	820	1,000
小久川・連郷橋	84	100
夏井川・久太夫橋	190	250
同・六十枚橋	26	32
好間川・岩穴づり橋	160	220
同・夏井川合流前	190	250
仁井田川・霞田橋	71	77
同・松葉橋	280	330
藤原川・島橋	67	90
同・みなと大橋	99	140
鮫川・井戸沢橋	11	19
同・鮫川橋	190	250
四時川・小室橋	53	68
蛭田川・小塙橋	140	160
同・蛭田橋	590	760

【湖沼・ダム貯水池底質】

▶県北		
摺上川ダム貯水池・ダムサイト	250	320
▶県中		
羽鳥湖・湖心	940	1,300
千五沢ダム貯水池・ダムサイト	520	720
三春ダム貯水池・ダムサイト	—	—
こまちダム・貯水池内	650	810
▶県南		
堀川ダム・ダムサイト	2,900	3,900
▶会津		
大川ダム貯水池・湖心	490	630
沼沢湖・湖心	—	59
猪苗代湖・湖心	—	—
檜原湖・湖心	170	310
小野川湖・湖心	—	57
秋元湖・湖心	920	1,100
曽原湖・湖心	86	110
雄国沼・湖心	680	990
磐梯五色沼湖沼群・毘沙門沼・湖心	—	—
東山ダム貯水池・ダムサイト	110	180
日中ダム・貯水池内	620	760
▶南会津		
奥只見貯水池・湖心	—	18
田島ダム・ダムサイト	—	—
▶相双		
真野ダム・貯水池内	5,200	6,300
松ケ房ダム（宇多川湖）・湖心	1,600	2,000
横川ダム・ダムサイト	10,000	13,000
岩部ダム・ダムサイト	5,300	6,900
高の倉ダム・ダムサイト	17,000	22,000
木戸ダム・ダムサイト	7,800	9,800
大柿ダム・貯水池内	3,600	4,800
滝川ダム・貯水池内	22,000	28,000
坂下ダム・貯水池内	31,000	38,000
▶いわき		
四時ダム・ダムサイト	1,400	1,900
高柴ダム・貯水池内	630	800
小玉ダム・貯水池内	590	770

【農業用ため池底質】

▶県北		
広平・須賀川市	250	320
宝ノ草・郡山市	160	240
▶県南		
渡利池・矢吹町	250	300
泉川・白河市	6,200	8,000
南湖・白河市	980	1,000
▶会津		
大沼・西会津町	12	16
寺入・会津美里町	730	910
▶南会津		
福井・只見町	23	24
▶相双		
武井・新地町	63	66
内沢・相馬市	23	22
▶いわき		
神下堤下・いわき市平	1,800	2,200
新池・いわき市	230	310

震災県内死者1936人

東日本大震災の県内

の死者は十七日午後五時現在、千九百三十六人で行方不明者は二百十六人となっている。住宅の被害は二十三万二千百四十四棟。

県内死者・行方不明者

	死者	行方不明者
合計	1936人	216人
福島市	3人	—
郡山市	1人	—
須賀川市	10人	1人
田村市	1人	—
石川町	1人	—
三春町	1人	—
白河市	12人	—
西郷村	3人	—
会津若松市	1人	—
相馬市	458人	—
南相馬市	631人	7人
広野町	2人	1人
楢葉町	33人	—
富岡町	69人	4人
大熊町	44人	1人
双葉町	53人	1人
浪江町	181人	3人
葛尾村	7人	—
新地町	114人	—
飯舘村	1人	—
いわき市	310人	37人

※人数は17日午後5時現在。合計は死者が県、行方不明者が県警の発表。死者は、行方不明者で死亡届が出された人。県内に居住し県外で被災した死者を含む。市町村別は県の発表。行方不明者の合計と市町村別の人数は一致しない。

放射性物質の検査結果

【野菜】

※食品衛生法の暫定基準値は放射性セシウム（134、137の合算）500ベクレル。

福島：ホウレンソウ	検出せず（<11）	検出せず（<11）
福島：タラノメ（施設）	//（<12）	22
郡山：イチゴ（施設）	//（<7.3）	検出せず（<6.3）
南相馬：シュンギク（施設）	//（<11）	//（<8.5）
南相馬：シュンギク（施設）	//（<11）	//（<8.1）
南相馬：ホウレンソウ（施設）	//（<9.7）	//（<8.3）
南相馬：ミズナ（施設）	//（<9.2）	//（<12）
南相馬：ミズナ（施設）	//（<9.7）	//（<8.6）
南相馬：キャベツ	//（<11）	//（<8.9）
川俣：タラノメ（施設）	39	63
川内：タラノメ（施設）	12	検出せず（<11）
川内：タラノメ（施設）	検出せず（<8.3）	//（<9.3）
南相馬：ダイコン	//（<9.0）	//（<8.2）

【牛肉】

※食品衛生法の暫定基準値は放射性セシウム（134、137の合算）500ベクレル。

矢吹	検出せず（<8.3）	検出せず（<6.1）
矢吹	//（<7.4）	//（<6.9）
矢吹	//（<9.0）	//（<7.2）
矢吹	//（<8.4）	//（<6.4）
下郷	//（<7.4）	//（<6.6）
喜多方	//（<7.8）	//（<8.2）
郡山	//（<12）	//（<9.3）
相馬	//（<9.6）	//（<8.8）
相馬	//（<7.0）	//（<8.5）
新地	//（<8.6）	//（<7.2）
相馬	//（<7.9）	//（<7.7）
相馬	//（<9.0）	//（<7.9）
矢吹	//（<7.3）	//（<6.1）
白河	//（<8.4）	//（<7.1）
二本松	//（<11）	//（<9.7）
鏡石	//（<9.6）	//（<6.9）
郡山	//（<8.6）	//（<8.5）
郡山	//（<9.4）	//（<7.4）
田村	//（<8.2）	//（<7.4）
須賀川	//（<7.2）	//（<6.5）
須賀川	//（<9.5）	//（<7.6）
鮫川	//（<8.4）	//（<7.7）
西郷	//（<7.4）	//（<5.4）
二本松	//（<8.0）	//（<6.9）
小野	//（<9.1）	//（<9.4）
田村	//（<8.2）	//（<7.9）
小野	//（<9.8）	//（<7.6）
福島	//（<9.9）	//（<7.9）
田村	//（<8.9）	//（<8.7）
小野	//（<8.6）	//（<6.7）
須賀川	13	20
郡山	検出せず（<8.1）	検出せず（<8.2）
喜多方	//（<8.1）	//（<8.0）

※単位は1キロ当たりのベクレル。左の数値はセシウム134、右はセシウム137。「<」の右側の数値は検出下限値。

【キノコ】

※食品衛生法の暫定基準値は放射性セシウム（134、137の合算）500ベクレル。

いわき：菌床シイタケ（施設）	検出せず（<9.4）	8.5
喜多方：原木シイタケ（施設）	19	27
新地：菌床ナメコ（施設）	検出せず（<9.7）	検出せず（<8.0）

野菜13点は基準下回る

放射性物質検査

県は十七日、野菜の放射性物質検査結果を【表】の通り発表した。五市町村の七品目、十三点を調べ、全てで放射性セシウムは食品衛生法の暫定基準値（一キロ当たり五〇〇ベクレル超）を下回るか、検出下限値未満だった。

検出値の最大は川俣町のタラノメ（施設）で一〇二ベクレル。

牛肉は基準下回る

放射性ヨウ素は全検体で検出下限値未満だった。

県は十七日、牛肉の放射性物質検査の結果を【表】の通り発表した。

十五市町村の畜産農家二十八戸で生産された三十三頭を調べ、全てで放射性セシウムは食品衛生法の暫定基準値（一キロ当たり五〇〇ベクレル超）を下回るか、検出下限値未満だった。

検出されたのは須賀川市の一頭で三三ベクレルだった。放射性ヨウ素は全検体で検出下限値未満だった。

キノコ基準超なし

放射性ヨウ素は全検体で検出下限値未満だった。

県は十七日、キノコの放射性物質検査の結果を【表】の通り発表した。いわき、喜多方、新地の三市町の菌床シイタケ（施設）などを調べ、全てで放射性セシウムは食品衛生法の暫定基準値（一キロ当たり五〇〇ベクレル超）を下回るか、検出下限値未満だった。

17日の県内13地点の環境放射線量測定値

（単位はナノシーベルト／時間）

測定時刻	福島市	二本松市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市	平市	田村市船引町	飯舘村	川俣町山木屋
平常値	0.04	—	0.04～0.06	0.04～0.05	0.04～0.05	0.02～0.04	0.05	0.05～0.06	—	—	—	—
1:00	0.82	0.69	0.64	0.34	0.10	0.06	0.38	0.18	—	0.75	0.81	
4:00	0.82	0.70	0.62	0.34	0.10	0.07	0.39	0.18	—	0.75	0.81	
7:00	0.79	0.69	0.62	0.33	0.12	0.07	0.38	0.18	—	0.74	0.81	
10:00	0.78	0.73	0.61	0.32	0.11	0.06	0.38	0.17	0.13	0.74	0.80	
13:00	0.81	0.69	0.64	0.33	0.11	0.06	0.37	0.17	0.14	0.76	0.82	
16:00	0.82	0.67	0.60	0.32	0.10	0.07	0.37	0.16	0.13	0.76	0.81	
19:00	0.80	—	0.64	0.33	0.10	0.07	0.38	0.18	0.11	—	—	

川俣町役場		伊達市小国ふれあいセンター	
9:26	0.57	10:12	1.29
14:55	0.57	13:40	1.30

※測定場所は県北保健福祉事務所、二本松市役所、郡山合同庁舎、県南合同庁舎、会津若松合同庁舎、南会津合同庁舎、南相馬合同庁舎、いわき合同庁舎、田村市役所、飯舘村役場、川俣町山木屋駐在所。川俣町役場と小国ふれあいセンターは午前と午後に2回計測。平常値の「—」は定点観測していないため出ない。

きょうの第一原発付近の天気と風向き（数字は風速m/s）

0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時	21時
西3	西4	西4	西5	西10	西6	西3	西1

東日本大震災生活情報

（変更の場合あり）

原子力・放射線

【原子力損害賠償等に関する相談・説明】

▼県＝原子力損害賠償制度の概要、原子力損害賠償紛争審査会の指針、賠償に関する手続きなどの相談に応じる。土、日曜、祝日を含む午前8時半～午後9時。毎週水、金曜午後1～5時は弁護士による法律相談も行う。☎024（523）1501

【放射線に関する相談・問い合わせ窓口】

▼政府原子力災害現地対策本部＝フリーダイヤル（0120）9883359（午前8時～午後10時）

▼健康相談ホットライン（放射線に関する健康相談）＝日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センターなど。フリーダイヤル（0120）755199（午前9時～午後6時）

▼被ばく医療健康相談ホットライン（放射線に関する一般健康相談）＝放射線医学総合研究所☎043（290）4003（午前9時～午後5時）

▼緊急被ばくスクリーニング実施施設＝平日午前10時～午後5時▽福島＝県北保健福祉事務所▽郡山＝市保健所▽須賀川＝県中保健福祉事務所▽白河＝県南保健福祉事務所▽会津若松＝会津保健福祉事務所▽南会津＝南会津保健福祉事務所▽いわき＝市保健所▽南相馬＝相双保健福祉事務所（相双のみ土、日曜、祝日も可能）

相談

▼生活相談窓口「ふみだす生活サポートセンター」

東日本大震災復興支援財団による「ふみだすふくしま」プロジェクトの一環として、ふくしま連携復興センターが県内や避難先での生活相談、法律相談、一時転居や子ども向けリフレッシュ・プログラムに関する情報提供などを無料で実施する。▽生活相談＝福島市太田町17の8、アーバン横山1のサポートセンターで午前10時～午後6時（水・日曜・祝日を除く）に受け付ける。直接来所の場合は予約が必要。☎024（573）2731、ファクス024（573）2733、メール info@fis-fukushima.com▽弁護士による個別法律相談＝毎月第2、第4火曜日（ただし2月28日は休み）午後に同センターで行う。予約が必要▽原子力損害賠償請求に関するセミナー＝28日午後にサポートセンター、3月9日午後1時半から郡山市のビッグアイで開く。予約が必要。

▼法律や税務に関する無料相談会　東京弁護士会